市長コラム

病院改革 『三方一両得』を目指そう!

三方一両損は、有名な大岡越前の名裁き です。病院改革を三方一両損ではなく、三 方一両得で実現する手段はないか。熟慮に 熟慮を重ね結論を出しました。「民間の力、 民間の手法」を取り入れ、分院存続を求め る市民の願いをかなえつつ、同時に経営改 善や医師確保などの諸課題も解決したい。 そのような観点から、このたび病院改革の 方針を打ち出しました。

本院は、県北の中核病院として一層の医 療高度化とマグネットホスピタルを目指し ます。分院は、地域医療確保のために分院 機能を維持しつつ、機能分担や連携、規模 の見直しを行います。本院と岩出山分院の 建設等基本計画の策定に直ちに着手しま す。すべての病院は経営健全化を推進する ために独立行政法人・指定管理者制度・民 営化などの新たな経営形態を導入します。 これらについては、専門家はもちろん、 域代表の皆さまにも参加していただいて検 討し、協働の手法によって病院改革を実現 してまいります。

化しました。

- ①市民(患者様):健康づくりの推進、適切 な医療の利用、病院に対する理解と支援 ②病院:管理機能の強化と経営改善、医療 スタッフの確保と資質向上
- 全化の推進



という全ての関係者に とって利益をもたらす 『三方一両得』を実現する ために、市民皆さまのご 理解とご支援をいただき ながら、こん身の努力を 傾注してまいります。

合併以来、市民最大の関心事であり、市 政の最重要課題である病院事業を、市民の 視点、さらには現状課題の解決や未来への 挑戦の観点から市民の皆さまとともに模索 してきた1年半でした。この時間と努力は、 大崎市民病院事業推進の知恵とパワーに進

- ③行政:安全で安心な医療の提供、財政健

二十三年度中の開院を目指し人保健施設と併せて、平成村(*2)」地内に民設民営の老 分院機能の確保と経営の健工十三年度中の開院を目指し 営による整備が最も効率的か 健施設と併設する形で公設民 病床数は四十床程度を基本 岩出山分院は「あったか 公立病院経営改 老人保 ます に併せて調整を進めます。 O鳴子温泉分院の考え方 さらに、

全化を図るためには、

の総合的な見也いる観光との連携など、 対策、予防医療や保健の推進 床縮小などを改革プラン策定に、病床利用率を考慮した病 過疎医療や高齢化 保健福祉

成二十年度中に策定ン)と併せて、基本で ・年度中に策定します。 基本計画を平 改革プラ

目指し、基本計画の策定など不可欠と考えています。

やご家族と相談しながら進めの転院などを、入院中の患者しつつも、より安全な施設へ 必要最小限の入院機能を存続耐震上の安全対策の観点から、 現在の岩出 一山分院は、

岩出山分院の考え方

に早急に取り組みます

経営改善に努めるととも鳴子温泉分院は、より一層

どについて検討を進めます容や指定管理者制度の導入 導入な

鹿島台分院の考え方

で発力。 定管理者制度の導入などにつ 定管理者制度の導入などにつ まさ、指 景字経営に向け、さらなる経 ら、現在の病床を維持しつつ率が高い状況であることかをして信頼が厚く、病床利用として信頼が厚く、病床利用 いて検討を進めます。

田尻診療所の考え方

層推進し、経営の質の向上や経営の田尻診療所は、 討を進めます 一や経営の 経営の改善策の検 の効率化を一地域医療の

今後の進め方

あほか厳しい 革ガイドライ

ドライン(*3) がこと

にしますが、

効果的と考えて

ため、

経営形態を含め公立病

総合的な見地から、

経営内

との見方もある

総務省が示した「公立病院

します 設等基本計画」も策定し、積ンと併せて「大崎市民病院建 の建設については、 え、関係機関と連携して策定委員会での意見・提言を踏ま で構成する「(仮称)病院改革者や医師会、地域代表者等 づき、平成二十年度に改革プ 経営改革ガイドライン」に基 プラン検討委員会」を設置し、 ランを策定することになりま さらに、 改革プランは、 地域代表者等 君出山分院

市民の皆さまへ

極的に取り組みます

いを病院改革や経営改善にもいた市民病院に対する熱い思 分院を守る会や署

を迫るもの

とご協力をお願い 引き続き賜り、

ようにひきつける魅力ある病 医師・看護師・患者を磁石の

あったか村

を進めているもの医療・福祉の拠点として整備を進めているもの

総務省が示す公立病院改革の公立病院経営改革ガイドライン*3 指針。 七十%を下回った場合など 赤字や病床利用率が

くの 市民の

県北

要な使命を担っています。に暮らす人々の命を預かる重 に暮らす人々の命を預か大崎市民ばかりでなく、

こうした地域医療を取り

けました。 反対や分院存続の要請を受たことには、多くの市民から 報告書の中で、病院経営が一市民病院改新検討会議 や深刻な医師不足を理由に、の財政を圧迫していること 一病院四診療所化案を示 病院経営が市

開催し、地域代表の意見や学が傍聴する中で五回の会議を設置しました。多くの市民 ら、学識経験者や医師会、合て重要な課題であることか命と地域医療にかかわる極め 併協議会委員など九人で構成 市民病院事業は、 市民の生

患者のリアスタッフの確保、通院や人を担う医師や看護師などの医療

の市民病院建設特別委員会か

す。また、併設されている救の重要な役割を担っていまの地域医療から高度医療まで

の三次救急医療機関として、命救急センターは、県北唯一

れています。
れています。
れています。

持することが困難な状況にから、現行の診療体制を維院経営や市財政の悪化など

あります

一方で市民病院は、

第 一線

また、

昨年十二月、

市議会

して

きました。

の医療スタッフの不足、病かし、国の医療制度改革のかし、国の医療制度改革の提供に努めてきました。し

巻く厳しい情勢と、安心を求める市民ニーズの高まりの中で、合併協議会の新市建設計画や大崎市民病院基本構想を踏まえ、市民病院基本構想を踏まえ、市民病院基内経営健全化検討会議や市民病院のあり方などを検討

病院)はこれまで、

崎市民病院(以下

公的医療以下 市民

厳しさを増す医療情勢

数多くいただきました。 衆見的で貴重な意見・提言を 大見的で貴重な意見・提言を

本院の考え方

このほど「市民病院改革の基本方針」がまとまりましたのでその概要についてお知らせします。

問

政策課

大崎市誕生以来、市政の最重要課題として取り組んできました。

市民病院事業は、

基本的 な考え方

図り、

「マグネットホスピタ

能分担と有機的な連携強化を

本院は、

市町村を越えた機

しながら「安全で安心な医療在の医療水準を最大限に確保れらのことを十分踏まえ、現 る充実した地域医療体制の構図り、市民の生命と健康を守 築を目指していきます 「安定した病院経営の確立」を フの確保と労働環境の改善」 の提供」「医師や医療スタッ 市民病院事業の改革は、

五百床規模の病院として建設

新病院は高度医療を担う

けて新たな経営形態を検討

するとともに、

経営改善に向

目指します。地域の高度先進医療の拠点を

ル(*1)」として機能する県北

と考えています。

事などへの支援病院としての
車などへの支援病院としての

れ以上の立地条件の場所)が建設場所(現在地もしくはそ

一層のご支援

マグネットホスピタル 院のこと

規模の縮小などの見直し

平成20年度に公立病院改革プラン

病院建設等基本計画を策定